

令和3年不動産鑑定士試験論文式試験

会計学(問題) { 満点100点  
時間2時間(10時~12時) }

[注意事項]

- 1 問題用紙及び解答用紙は、係官の指示があるまで開けてはいけません。
- 2 これは、問題用紙です。解答は、解答用紙に書いてください。
- 3 問題用紙は表紙を含めて4ページ、解答用紙は表紙を含めて3ページです。
- 4 解答は、解答用紙の所定の欄に、黒若しくは青のボールペン又は万年筆で丁寧に書いてください。鉛筆等で書くと無効となります。
- 5 答案の下書きは、問題用紙の余白部分を利用してください。
- 6 問題用紙は、本科目終了後、持ち帰っても構いません。

\* この問題は、令和2年9月1日時点で施行されている法令及び諸規程により出題しています。

**問題 1** (50 点)

次の文章は、繰延資産について述べたものである。以下の各問に答えなさい。

「将来の期間に影響する特定の費用」とは、すでに代価の支払が完了し又は支払（ア）が確定し、これに対応する（イ）の提供を受けたにもかかわらず、その効果が将来にわたって発現するものと期待される費用をいう。これらの費用は、その効果が及ぶ数期間に合理的に（ウ）するため、（エ）に貸借対照表上繰延資産として計上することができる。

（企業会計原則・注解 15 より一部抜粋）

- (1) 文中の空欄（ア）から（エ）までに入る適切な語句を答えなさい。
- (2) 「将来の期間に影響する特定の費用」を資産として計上する根拠となる会計学上の基本原則は何か答えなさい。
- (3) 現行制度上、繰延資産として認められている 5 項目は何か答えなさい。
- (4) 繰延資産の計上は、強制ではなく企業の任意とされ、支出時に費用として処理することも認められている。そこで企業は、採用した処理方法について、どのような形で財務諸表に示さなければならないか答えなさい。

問題2 (50点)

次の文章は、企業会計基準第9号「棚卸資産の評価に関する会計基準」(以下、「本基準」という)からの抜粋である。これに関連して、以下の各問に答えなさい。

6-2. 棚卸資産については、原則として購入代価又は製造原価に引取費用等の付随費用を加算して  とし、次の 評価方法の中から選択した方法を適用して売上原価等の払出原価と期末棚卸資産の価額を算定するものとする。

(略)

7. 通常の販売目的(販売するための製造目的を含む。)で保有する棚卸資産は、をもって貸借対照表価額とし、期末における がよりも下落している場合には、当該をもって貸借対照表価額とする。この場合において、と当該との差額は当期のとして処理する。

(略)

10. 製造業における原材料等のようにの方が把握しやすく、(A)と想定される場合には、継続して適用することを条件として、 (略) によることができる。

(1) 空欄からまでに入る適切な語句を答えなさい。

(2) 下線部 a として、本基準では先入先出法・移動平均法などが挙げられている。以下の設例に基づいて、先入先出法と移動平均法のそれぞれを用いた場合の当月末時点における棚卸資産の残高を計算しなさい。なお、端数ができる場合には解答の最終段階で小数点以下を四捨五入しなさい。

[設例] 棚卸資産の管理状況

X月1日	前月繰越	70個	@ ¥ 1,000
7日	売上	50個	@ ¥ 1,700
13日	仕入	100個	@ ¥ 1,060
25日	売上	20個	@ ¥ 1,800

- (3) 下線部**b**の会計処理の基礎にある考え方に関して、次の間に答えなさい。
- ① 本基準において取得原価基準はどのような考え方として捉えられているか説明しなさい。
  - ② 上記①を前提に、本基準において下線部**b**の会計処理は取得原価基準と矛盾するか否か、理由もあわせて説明しなさい。
- (4) (A)に入るもの(  )による評価を行うための条件)を答えなさい。
- (5) 棚卸資産以外で、トレーディング目的で保有する棚卸資産と同様の会計処理(期末評価に関する処理)を行うものを答えなさい。

(以下余白)







